

第1回大阪府自殺対策審議会 議事概要

◇日時：平成25年 3月28日(木) 午前10時～11時

◇場所：府庁本館 2階 第4委員会室

◇出席者：石蔵委員、白川委員、廣常委員、高橋委員、廣安委員、深尾委員、南委員、八尾委員、横尾委員、渡辺委員、以倉委員、植西委員、花崎委員、播本委員、本田委員、三ツ石委員、相澤委員、永井委員、松浦委員

(敬称略)

○ 会長の選出 白川委員を会長として選出

○ 審議・意見交換

1) 部会の設置について

「啓発・予防部会」「自殺未遂者支援部会」を設置。

専門部会委員として、連絡業議会部会に参加いただいた委員を中心に依頼する。

2) 「自殺者ゼロをめざす」というメッセージについて

趣旨：2月府議会において、府の目標を「自殺者数を1500人以下」と掲げているが、長期的な目標としては「自殺者数ゼロ」を目指し、府民に対してもそれをメッセージとして発信すべきではないかという提案があった。

府としても「自殺者数ゼロ」を目指すという思いは同じであるが、自死遺族も含めた府民に対する影響を考慮する必要があるかと考え、ご意見をいただきたい。

意見：

- 「ゼロをめざす」というのはインパクトはあるが、ネガティブなところが強調されすぎるのではないか。
- 「自殺は防ぐことができる」と言われると自死遺族は非常に辛い思いをされる。「極力少なくする」といった表現をしないと、遺族にとっては、負担になるのではないか。
- 「1500人以下」というのも、根拠がない。「自殺者ゼロの社会を目指す」という表現はどうか。
- 平成15年度に大阪府の自殺防止の標語を公募し、「府民の願いは自殺ゼロ」という標語が選ばれたが、この10年間にいろいろな立場からの意見が出されるようになったことも踏まえ、配慮して検討を。
- 自殺対策はもともと数値目標にとらわれるものではない。アピールは必要だが、状況を踏まえた言葉を足して表現すると、遺族のいたみも緩和されるのではないか。
- 自死族は自責の念も持っておられるが、一方で自分たちのような思いをする人が出ないような活動をしたいという思いも持っている。

- 労働災害の標語として「ゼロ災おおさか」というものがあり、アピール効果は高い。しかし労災と自殺はニュアンスが違うので、「ゼロ」を残しつつ、表現の工夫を。
- 「ゼロ」という言葉を出してしまうこと自体に、違和感がある。いくら言葉をソフトにしても人間理解としてゼロをめざすというのはどうか。
- 自殺者が悪いという受けとめになることがまずいので、「自殺者が出ない社会」「自殺が生じない社会」というような、「自殺者が出るような社会が悪い」ということがはっきり伝えられるといい。
- メッセージの出し方については、遺族の意見を聞いてほしい。

↓

「ゼロ」という言葉を残しつつ、強調されすぎないような表現を検討する。自死遺族の意見を参考にして、最終的に審議会の結論としたい。

(3) その他

- 自殺者が医療機関に通院していることがわかれば、警察から医療機関に連絡してほしい。
 - ・警察で自死遺族に対して、自死遺族支援のためのリーフレットを渡すということになっていたと思うが、現在も実行されているか。
- ↓
- ・確実にすべてというわけではないが、自死を確定するための調べの過程で、主治医連絡を行っている。
 - ・自死遺族のパンフレットは現在も引き続き配布している。
- 各市町村では連絡会議など盛んなところとそうでないところがあり、保健所単位ごとぐらいのエリアで、市町村の担当者や、民間団体、地域の相談機関などにも声をかけていただき、情報交換や意見交換の場を設けていただきたい。
- ↓
- ・25年度以降保健所を中心とし、当面「自殺対策」をテーマとした会議を地域関係機関も参加する会議を立ち上げる予定をしているので、またご協力いただきたい。
 - ・市町村に対しても、庁内連絡会議等を立ち上げていただきたいと首長にも依頼しているところ。
- 自殺未遂者相談支援事業について、リーフレットを見ると6ヶ所しか取組んでいないイメージだが、相談窓口は府全域をカバーしているのか。
- ↓
- ・府保健所のあるエリアは保健所が窓口となっているので、全域をカバーしている。
- 平成26年度で基金終了ということだが、27年度で終了後はまた数百万円の予算に戻るのか。この落差をこの2年で埋める努力をした方がいいのでは。今後予算を組む時に配慮をお願いしたい。